

アジア共生学会創立 20 周年記念事業

公開講演会

中国内モンゴルでの砂漠緑化 追い続け 30 年

主催：アジア共生学会

後援：北九州市立八幡図書館

日時：2023 年 11 月 25 日（土）10 時 30 分～12 時（受付開始：10 時）

場所：北九州市立八幡図書館 2 階セミナー室

※本事業に関する問合せおよび申し込み先

アジア共生学会事務局

参加ご希望の方は、①ご所属、②お名前、③E-mail、
④電話番号を記載の上、事務局まで電子メールか FAX で
お願いします。定員 30 名。

(ozawa@cb.kiu.ac.jp、FAX：093-662-8319)

(問合せ先 Tel：093-662-8319、事務局長：男澤)

※11 月 20 日を締め切りとします。

参加費無料

ご参加をお待ちしています

■坂本毅先生（有限会社バンベン代表）



【略歴】

北九州市生まれ。大学卒業後、1991 年、日本語教師として青年海外協力隊に参加。中国内モンゴル自治区オルドスに派遣され、モンゴル族の高校で 3 年間日本語を教える。そこで砂漠化の恐怖を体験。2004 年 10 月、「塩を売って緑を買う会社」バンベンを設立。内モンゴルの岩塩や重曹など天然素材を日本で販売。その売上の一部をオルドスの緑化事業に投入。現在までに約 700ha の砂漠緑化を実現。現在は緑化した土地で有機農業を実践するなど持続可能な経済と環境の好循環モデル作りを軸足を移しつつある。また、2017 年、佐賀県小城市に移住。小城農泊推進協議会（小城ぱくっ！）を立ち上げ持続可能な里山再生事業に取り組んでいる。

【講演の内容】 黄砂を止めよ！砂漠を緑に！「塩を売って緑を買う男」の挑戦

私が 32 年前、青年海外協力隊員として派遣された中国内モンゴル・オルドス。モンゴルという大草原が広がっているイメージがありますが、オルドスは過開墾・過放牧・気象変動などで砂漠化が進んでいました。砂が現地の人々の生活を飲み込み、細かい砂は黄砂となって日本にも降り注ぎます。

「第 2 の故郷オルドスを元の緑に戻したい」という思いから 2004 年塩を売って緑を買う会社「バンベン」を立ち上げました。本講演会では協力隊時代の体験、緑化ビジネスの推移や現状、未来への構想など、エピソードを交えながらお話しします。「人間が地球に住み続けるために」一人ひとりが考えアクションを起こす、そのきっかけになるような時間になりたいと思います。

※最後に質疑応答の時間も設けております。